

# 平成24年度 学習指導改善調査 協力校としての取組

柏崎市立剣野小学校

## 1 研修の推進にあたって

当校では、「自分の考えをもち、分かりやすく表現する子」の育成を目指して、「考える力を付けるために書いたり、話したりすること」に重点を置き、日々の教育活動を展開している。目指す子どもに迫るための手立てとして、特に「表現する場面の設定」を授業者が工夫し、授業改善に臨んでいる。

## 2 学習指導改善調査を受けた実践

### (1) 今年度の学習指導改善調査より見えてきた課題と改善点

	4年生	5年生	6年生
誤答傾向の問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容は合っているが、理由を述べる表現「～だから」ができない。</li> <li>問題をよく読んでおらず、答え方を間違っている。資料の一部しか読まずに答えてしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立場を明確にした記述ができない。</li> <li>ねらいと整合させて、自分の考えを記述する力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えや知識を記述する力が弱い。</li> </ul>
授業改善の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>理由を表す文章表現を練習する。</li> <li>作文を書くときには、文末表現を意識して書かせるようにする。</li> <li>問題文や教材文を読むとき、大事なところに線を引かせたり、最後までしっかり読んだりさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃から、一人一人が自分の考えをもてるよう、授業中に書く時間を確保したり、自信をもって考えを述べられない児童への個別の声掛けをしたりする。</li> <li>定められた条件の中で文章を書く経験を積ませる。</li> <li>資料やグラフをもとに、自分の考えを書く機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識や経験を入れて記述したり、発表したりする活動を授業の中に意識して取り入れる。</li> </ul>

## (2) 実践例 ～国語科において～

○4年生 「ごんぎつね」

・理由を述べる文章表現の習得を目指して

○5年生 「天気を予想する」

・伝えたいことの根拠を明確にして書くことを目指して

○6年生 「ものの見方を広げよう」

・自分の考えを分かりやすく表現する子どもを目指して

## 3 実践を受けて

### (1) 授業研究の充実

「自分の考えをもち、分かりやすく表現する子の育成」を目指して、学年1学級が授業の全体公開を実施した。どの学年でも、「自分の考えを表現する場」を意識した授業実践がなされた。各実践においては、「ペア学習」「グループ学習」「一斉学習」等、「考えを表現する場」を工夫したことで、児童は、自分の考えに自信をもったり、深めたりすることができるようになってきた。

また、全体公開後には、KJ法と概念化シートを活用したワークショップ形式の協議会を行った。成果と課題を整理し、全職員で共有できるようにし、各自の授業改善に役立ててきた。

### (2) 学習指導改善調査の分析とその後の取組

7月実施の学習指導改善調査では、4～6年生は、国語・算数ともに、新潟県平均を上回った。しかし、「書く力」に若干の落ち込みが見られたので、日々の授業でも、理由を表す文章表現の練習、一人一人が考えをもつことができるような書く時間の確保、知識や経験をもとに文章を書く練習等に取り組んだ。

全校での取組として、月曜日の朝学習の時間を「かきかきタイム」として、書く力を高めるような取組をしてきたことで、書くことに抵抗をもつ児童が減ったり、段落を意識したり、会話文を含んだ作文を書いたりすることができる児童が増えてきた。

### (3) 今後の課題

学年ごとに、「書く力」を高めるための取組を実施しているが、学年間のすり合わせが十分にできていなかった。児童が着実に「書く力」を付けていくために、6年間を見通した「書く力」の系統表を作成し、系統性をもった指導を行っていく必要がある。

# 理由を述べる文章表現の習得を目指して

## ～第4学年 国語科「ごんぎつね」の実践を通して～

柏崎市立剣野小学校 増井智恵子・佐々木綾香

### 1 授業改善の視点

学習指導改善調査では、理由を述べる文章を書く際に「〇〇だからです。」という文末表現の習得が十分ではなかった。児童は、国語の授業以外でも、算数の授業などで理由を書く学習を行っている。しかし、算数の授業においても、理由を書く際に文末を意識していない児童が多く見られることが分かった。

そこで、国語科を中心に、「理由を述べる文」を書く学習を授業の中で意図的に取り入れることにした。本時では、発問の中に「なぜ」を取り入れ、その理由を考える学習を行った。

### 2 実践の概要

#### (1) 単元名

読んで考えたことを話し合おう「ごんぎつね」(全14時間)

#### (2) 本時の目標 (12/14時間)

○2つの「なぜ」という発問からごんと兵十の気持ちを読み取り、ワークシートにごんの気持ちを書くことができる。

#### (3) 本時の構想

##### ①「なぜ」を含んだ発問

「それは〇〇だからです。」という答えが導き出せるように、意図的に「なぜ」を取り入れた発問を設定した。

##### ②考えを明確にするための「書く」場面の設定

自分の考えを整理し、明確にするために「書く」場面を授業の中で設けた。「なぜ」という問いかけの発問なので、文末に気を付けることを指導し、板書には黄色いチョークで「〇〇だからです。」「～と考えるからです。」という型を提示し児童が書きやすいようにした。

##### ③話す・聞く活動の設定

ノートやワークシートに書いた自分の考えは、学級内で伝え合い、互いにどのようなことを感じ取っているのか知る機会を設けた。相手に自分の考えを伝えるという活動を通して、話すなかで自然と理由の述べ方を身に付けることができると考えた。仲間の意見を聞いて、自分とは違う考えだったり、よい意見だと思ったりしたものについては青色で自分のノートに書き足すように指導した。

#### (4) 本時の実際

##### ①発問を考える

『ごんは「つまらないなあ」と思っているのに、なぜ明るく日もくりを持って行くのだろうか。』という発問を考えた。発問を板書し、発問の中の「なぜ」という言葉を黄色いチョークで囲み強調した。児童は教科書や単元の中で書きためていたワークシートなどを読み返しながら考えていた。問われていることがはっきりと焦点化されているので、それほど迷うことなく書くことができていた。本時は他にも「兵十はなぜごんを撃ってしまったのか。」という発問も行った。この発問は、ノートに考えを書くことはせずに口頭で考えを述べ合うようにした。

## ②ノートに考えを書く

『ごんは「つまらないなあ」と思っているのに、なぜ明るく日もくりを持って行くのだろうか。』という発問は、児童にとって考えやすい発問だったようで、考えがすぐに思いついた児童が多かった。考えついた児童は、口頭で早く答えたいようだったが、文末を意識することをねらいとしているので、まずは書いてから発言するように促した。子どもたちからは「まだつぐないが足りないから。」「ぼくがやっていると気付いてほしいから。」など「～から。」という文末で書いている児童が多く見られた。



## ③話す活動の設定

ノートやワークシートに書いた自分の考えを全体で発表し、考えを交流した。あらかじめノートなどに考えを書いているので、挙手をし、積極的に考えを述べるようになっていた。ノートには「～だからです。」の文型で書いていても、発言すると文末を省略してしまっている児童が数名みられた。その児童には、「理由を述べる文の形にしてもう一度言ってごらん。」と投げ掛け、文末を意識するように促した。また、児童には「友達の考えや意見で『いい考えだなあ。』、『自分もそう思う。』というものがあったら青ペンでノートに書かしましょう。」と投げかけた。児童は友達の考えを熱心に聞き、自分なりに取捨選択しながらノートに書くことができていた。



## (5) 本時の成果と課題

### ①成果

○文型を意識し、書いたり述べたりする力が付いた

理由を述べる際には文末を「～だからです。」という表現に変化させることを意識して、な文を書いたり意見を述べたりする児童が増えてきた。国語の授業以外でも、理由を述べる際には無意識に「～と思うからです。」というように発言できる児童の姿が見られた。(相手意識、場面・状況意識)

### ②課題

○文章を推敲する力と習慣を付ける

自分で書いた文章をそのままにするのではなく、読み返して誤字や文末表現などを自ら見直し修正できる力を身に付け、文を推敲することが習慣化されるように指導していく必要がある。(評価意識)

## (6) 単元を通した児童の学び

単元の始めのうちは、あらかじめ板書で「～だからです。」という文末表現を提示し、型に当てはめながら理由の述べ方を書く練習をしてきた。単元の中で、何度かそのような学習をするうちに型を提示せず、発問だけを板書した場合であったとしても、自然と文末に注意して文章を書くことができるようになってきた。机間指導の際に、文末を書き忘れていた児童には、教師側から「自分で書いた文を読み返してごらん。」と声掛けをすると、「あっ、文の最後、変えなきゃ。」というように気付くことができるようになってきた。今後は「書いたら読み返す」という文章を推敲する習慣を身に付けさせ、自らの力で自分の文章を「よりよいものにしよう」とする意識を育てていきたい。

# 伝えたいことの根拠を明確にして書くことを目指して

## ～第5学年 国語科「天気を予想する」の実践を通して～

柏崎市立剣野小学校 山崎眞由美・西川祥雄

### 1 授業改善の視点

学習指導改善調査の結果から、「本文と資料を関連付けて読み取り、当てはまる言葉を書く問題」、「問題文にある学級目標と整合させて自分の意見を書き加える問題」に課題があることが分かった。

また、普段の授業では、学習問題をしっかり押さえながら長文を読むことや、根拠を明確に示しながら自分の考えをしっかりと述べることを苦手としている児童が多く、学習中の発言などは、数名の児童に限られる傾向が見られる。

そこで、本時では、読み取り学習では、段落を区切らず、全文から「問い」とそれに対する「答え」を見付ける活動や、自分たちで意見交流をする「グループセッション」の活動を取り入れ、一人一人が自分の考えを伝えたりその根拠を示したりする場を設定し、個々の力を伸ばしていきたいと考えた。

### 2 実践の概要

(1) 単元名 「天気を予想する」(全7時間)

(2) 本時の目標 (2/7時間)

- 三つの問いと答えを見付け、それぞれの関連に着目しながら構成の工夫を読み取ることができる。
- 自分の考えと比較しながら、友達のを聞き、話し合う力を身に付ける。

(3) 本時の構想

#### ①全文を読み、3つの問いを手がかりに答えを読み取る

全文を印刷したものをノート上段に貼り、3つの問いを探してペンで囲み、それぞれの答えが書かれていると思われる文にサイドラインを引く。答えだと思う文の下になぜ、そう思ったのかを書き込む。自分の考えや全体で確認したことなどを3色ボールペンを使い分けながら、読み取っていく。ノートを使いながら作業をするので、一人一人が教材文に向き合い、考える作業がしやすいと考えた。

#### ②3つの問いと答えの関連について話し合う場面の設定

グループセッションを他教科や総合的な学習の時間、特活などで日常的に行っている。4人班で進行・記録を決め、輪番で実施しているが、個人差があり全員が上手に進める訳ではない。

しかし、生活班で繰り返し行うことで、互いの考えを比べ合ったり、班で出た考えをグルーピングしたりする力は着いてきている。そこで、問いに対する答えをどのようとらえているかを班でまとめ、問いと答えの妥当性を検討することは、学級全体で話し合うこととする。

#### ③振り返り場面の工夫

単元の終わりに、書き上げた自分の意見文を読み合い、それぞれの考えがよく伝わったか、表現の仕方でさらに工夫した方がいいことなどを付箋紙に書き、助言し合う。助言する前に、友達に伝えたいことをそれぞれが文章で表すことで、考えをまとめることができ、それを読むことで、自分の考えを認められた喜びを味わうことができるであろうと考えた。

(4) 本時の実際

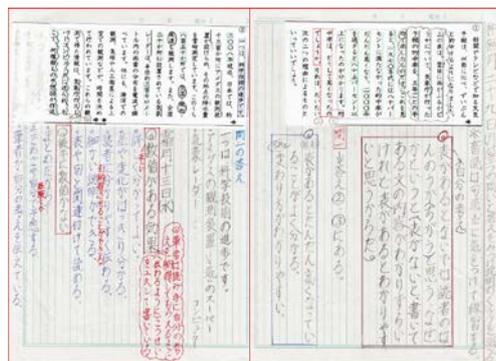
#### ①全文を読み、3つの問いを手がかりに答えを読み取る

上段に段落カードを貼り、下を空欄としたノートを使い、考えの根拠となるところにサイドラインを引いたり、その理由を下に書いたりした。力の差はあるが、それぞれが自分の考えをまとめることができ、次のグループセッションでも自分の考えを友達に伝えるのに役立った。

## ② 3つの問いと答えの関連について話し合う場面の設定

輪番で進行や記録をしていることで、「ぼくは、問い①の答えは、○段目の△行目の～だと思います。なぜかというところ…」と根拠を示しながら自分の考えを友達に伝えることができた。

しかし、4人の意見が分かれたときに、1人が出した意見に簡単に納得する様子が見られた。答えを見付けられなかった児童が、話し合いの中で気付けるような支援も不足していた。



## ③ 振り返り場面の工夫

ノートを使った自力解決、グループセッション、学級全体での話し合いの後、授業の終末で本時の振り返り「感想」をノートに書いた。

「グループセッションで、考えをきちんと話すことができた。」「進行係だった。順番に進められた。」「記録係だった。少し時間がかかってしまったけれどがんばった。」など肯定的な感想が多かった。しかし、内容や意見の違いにふれるものはなかった。



## (5) 本時の成果と課題

### ① 成果

○問いに対する答えをさがす自力解決、グループセッション、学級全体での話し合いと1時間の途中で学習形態を工夫することで、児童一人一人が学習課題をしっかりと理解し、意欲的に学習に取り組むことができた。

○読み取りをするときに、「問い」、「答え」、「その根拠となるところ」に色分けをしてサイドラインを引くことにより、文章に則した読み取りをしようという意識が見られた。

### ② 課題

○導入で、全文を音読させたことにより学級全体で問いに対する答えを確認する時間が不足した。問いによって答えが分かりやすいもの、見つけづらいものがあるので、3つの問いを分担するのではなく、答えを見付ける問いを1つに絞って考えさせるなど、さらに学習課題を精選する必要がある。

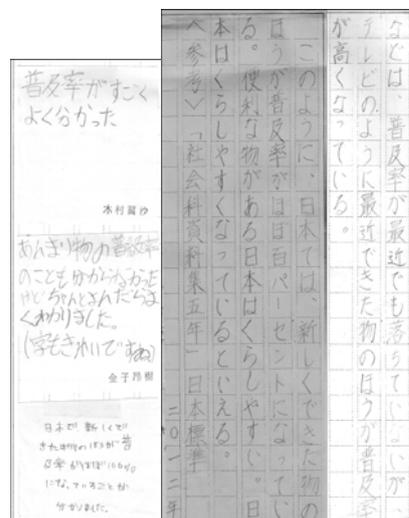
○説明文であるので、答えをさがすポイントとして文や段落の型を教え、「～のである。」などの文末表現などの指導も行うなど、自力解決の際には、指導事項をもっと明確に押さえない。

○グループセッションでは、互いの意見の相違点を理解したり、よりよい考えに集約したりする力を育てるために、話し合う内容をさらに検討し、段階を踏んで経験させる必要がある。

## (6) 単元を通じた児童の学び

「天気を予想する」文章の構成や考えの写真や表・グラフなどを使い考えの根拠を示しながら伝えたいことを述べる学習と次単元「グラフや表を引用して書こう」を一続きの学習と捉え、前単元の導入から自分でも意見文を書くことを意識させて指導をしてきた。「くらしやすさ」「くらしにくさ」について自分の立場を明確にし、その裏付けとなる資料をさがし、意見文を書く学習である。

意見文を書くことに苦手意識のあった児童が、「表を用いることにより、的中率が上がったことがよく分かる」などの根拠を示しながら文に表す方法を使って自分の考えを書いたり、文章構成を考え、最初に「終わり」の部分を考え、自分の伝えたいことをまとめ、それから「はじめ」や「中」を書いたりすることができるようになってきた。



# 自分の考えを分かりやすく表現する子どもを目指して

## ～第6学年 国語科「ものの見方を広げよう」の実践を通して～

柏崎市立剣野小学校 竹内暁美・青木一浩

### 1 授業改善の視点

児童はこれまでに、調べたことや体験したことを文に書いたり、パンフレットに表現したりする経験をした。

本単元では、絵を見て、そこから読み取ったこと、感じたことを文章に書いた。「『鳥獣戯画』を読む」では、筆者が絵のどの部分に着目して、どのような表現の仕方をしているかを確認しながら読み進めた。「この絵、わたしはこう見る」では、本文中に示されている読み取ったことや感じたことを表す表現や、見る場所や見る方法を表す表現などを、自分が文章を書くときに使えるようにしてきた。

### 2 実践の概要

#### (1) 単元名

ものの見方を広げよう『鳥獣戯画』を読む・この絵、わたしはこう見る（全9時間）

#### (2) 本時の目標（5／9時間）

○自分なりの問いを立てて、絵から情報を読み取り、読み取ったこと、感じたこと、見る場所や方法を表す表現を使って、自分の考えを書くことができる。

#### (3) 本時の構想

##### ① 感じたことを述べ合う場の設定

絵を見て感じたことを、述べ合う場を設定した。自分の感じ方と、友達の感じ方の違いが分かったり、気付かなかった見方や感じ方を発見したりできると考えた。

##### ② 問いを立てて、答える形で自分の考えを述べる

根拠を明らかにしていく方策として、問いを立てて、それに答える形で自分の考えを書くようにした。問いは、「だれ」「身につけているものや持っているもの」「場所」「形」「色」「線」「位置」「ポーズ」などから作るようにした。この問いにより、着目点を示すことができると考えた。

答え方として、表現の仕方を示し、それを使って書くようにした。

〈見る場所や見る方法を表す表現〉 ・「～を見ると」 ・「～に目を向けると」 ・「～して見ると」 ・「～だけに注目すると」	〈読み取ったことを表す表現〉 ・「見える」                      ・「感じる」 ・「聞こえてくる」              ・「伝わってくる」 ・「印象を受ける」              ・「表れている」 ・「読み取れる」                  ・「受け取れる」
〈感じたことを表す表現〉 ・「～ではないか」              ・「～だろうか」              ・「～かもしれない」 ・「～にちがいない」              ・「～だろう」                  ・「～せずにはいられない」	

##### ③ 感想を伝え合う場の設定

友達の「問い・答え」を読んで、感想を伝え合う場を設定した。感想を付箋紙に書き、それをノートに貼るようにした。付箋紙に書くようにすることで、記録として残り、後の読み取ったことを文章化する学習の参考として活用できると考えた。感想も、「自分と同じ」

「そんな見方はおもしろい」「(同じ場所でも)私は、こんな風を感じた」など、いくつかの例を示し、文を考えて感想を書くようにした。

#### (4) 本時の実際

##### ①感じたことを述べ合う場の設定

1枚の絵(風神雷神図)を見て、感想を発表した。グループの方が話しやすいので、グループ内で思いっくままに、感じたことを発表し合うようにした。「へえ。」「そうか。」「それ同じだ。」など、友達の発表に対して、自分の感想を述べ合う様子があった。

##### ②問いを立てて答える形で、自分の考えを述べる

最初に話した感想について、問いを作って答えを書く様子が見られた。いくつも感想を発表していた児童は、多くの問いを作っていた。なかなか問いを作れない児童は、感想発表でもうまく話せないでいたようだった。

問いは「ここはどこだろう。」とか、「手首についている輪はなんだろう。」など、問いのヒントとして示したものから作っていた。答えは「ここは、天国と地獄だと思う。白は天国、黒は地獄を表しているように見える。」とか、「輪は、特別な力を与えるものだと思う。二人が空中に浮いているからだ。」というように、考えた根拠をきちんと答えの中に述べていた。根拠になる部分がより分かりやすくなるように、絵の中のその部分に○印をつけ、答えと線でつなぐようにした。

学習は個人作業だったが、グループで話しながら進めることで、友達の答えを参考にしながら、自分の考えを書いていく児童もいた。

##### ③感想を伝え合う場の設定

友達が書いた「問い・答え」に対して、付箋紙に感想を書いた。自分と同じ見方をしたり、感じ方をしたりしたものについては、「同じです。」「私もそう思います。」と書けていた。違うものについては、「なるほど。」「そんな見方もあるのか。」という感想があった反面、「ふうん。」で終わってしまうものもあった。

#### (5) 本時の成果と課題

##### ①成果

○個人で行う学習が中心であったが、グループを作って学習を進めることで、意見を交換し合ったり、友達の話をヒントに自分の考えをまとめたりすることができた。

○根拠になる絵の部分に○印をつけることで、「この部分」という意識が強くなり、答えの中にしっかりと記述できた。

○表現の仕方を示したことで、その表現の仕方が使えるような文の書き方を考えていた。

##### ②課題

○問いを立てることがうまくいかない様子も見られた。本時最初の、自由な感想発表をもっと話す時間を作って、そこで、問いをみんなで考えるようにしていけば、問いの立て方が分かりやすくなったのではないか。

○表現の仕方を示したことで、逆に答えにくくなってしまった児童もいた。

#### (6) 単元全体を通した児童の学び

単元を通して表現の仕方を示していたので、児童は意識して表現していた。単元末の感じたことを文章化する学習で、表現の仕方について再度確認して取り組んだ。自分の考えを自分の表現で書くのはよいのだが、表現の仕方を使うのは難しかったようだ。書こうと努力したあとが、児童の文章から読み取れた。